

「島根県無線赤十字奉仕団」の結成

昭和47年2月20日

現在:上記の団体名称に変更されています



島根県アマチュア無線赤十字奉仕団結成大会
(昭和47年2月20日 出雲市老人福祉センターにて)

災害発生等に備えてアマチュア無線による緊急通信体制の整備が必要であったが、県支部の野津主事・中沼囑託らは昭和四十五年ごろから結成の準備に入り、当時すでに結成されていた「米子アマチュア無線赤十字奉仕団」の訪問をしたりしていた。

昭和四十六年一月、松江市青年センターに於てアマチュア無線関係者による話し合いに続いて、日野実(平田)・直良潔(出雲)と、県支部の中島・中沼による打合会を経て、昭和四十七年二月二十日、支部からは本田が出席して出雲市老人福祉センターにおいて結成された。会員は出雲市を中心に平田市・簸川郡のアマチュア無線関係者で、委員長に日野実(平田市)、副委員長に直良潔(出雲市)が選ばれた。

平成元年二月二日(木曜日)

赤十字物語

日赤島根県支部百年の歩み

◇58◇

アマ無線奉仕団

中国太郎の異名を持つ江の川の水かさが増し、危険水位に達した七月十一日深夜、島根県アマチュア無線赤十字奉仕団事務局長の矢野強、斐川町、自営業は、眠れぬ夜を過ごしていた。

窓の外はバケツを引っくり返したようなどしや降り。二カ月前に初参加した非常通信災害救助訓練の様が脳裏をよぎっていた。昭和四十七年のこの日、島根県地方は数日前からどっかりと居座った梅雨前線の影響をまともに受け、各河川は軒並み増水。宍道湖の水があふれ出し、主な河川では濁流がごう音とともに堤防を一瞬のうち破壊し、キバを向けて襲いかかった。死者・行方不明二十七人を出し、県下五十

九市町村のうち実に二十一日町村に災害救助法が発令された「47・7豪雨災害」である。出雲部のアマ無線家二十人で組織し、この二月に旗揚げしたばかりの無線奉仕団であったが、その活躍には目覚ましいものがあった。「被害甚大で通信の途絶えた桜江町へ日赤救援班を派遣するので、ぜひ、協力下さい」。県支部事業課長本田坦から「出動要請」を受けたのは十三日。早速、団代表の日野実、平田市、公務員と調整を取り、とりあえず副代表直良潔、出雲市、会社役員をチーフに黒田一雄、斐川町、会社員、そして矢野本人の三人が現地入りすることになった。

47・7豪雨で大活躍



「47・7豪雨」で活躍するアマ無線赤十字奉仕団員
桜江町

は困難を極めた。夕やみ迫るころ、一行は壊滅的な打撃をこうむった現地にたどり着く。休む間もなく避難場所の公民館の一角に現地局を設け、テスト送信を繰り返す。しかし、三人はかならずしも歓迎はされなかった。

ようだ。矢野は当時を振り返る。「ハム無線は道楽者の遊びという認識が強かったためか、なぜ、私たちが救援班と一緒にやってきたのか、現地の人たちにはよく分からなかったようで、戸惑ってましたね。」

無線が非常時に便利なものだと分かってからというもの、引っぱりだこでして、食事の差し入れなど気を配ってくれました」

行政無線の整備が立ち遅れていた当時、非常時の通信手段は警察無線しかなかった。このため、各現地对策本部からの通信はふくそうし、現地をいらだたせた。出雲の中継局を経由するにせよ、ダイヤレクトに状況を伝えるアマ無線は、現地对策本部だけでなく、住民たちを勇気付けさせた。

実は現地からの発信は東京・日赤本社でも傍受されていた。より遠くまで飛ぶ短波ならではのことだが、これによって本社からの救援物資・医薬品輸送は大幅に短縮。県支部が協力要請するころには、既に発送準備に入っていたという具合で、関係者は改めて無線奉仕団の重要性を認めることになる。

矢野らは孤立した川戸、川越地区でも活躍。急患輸送の依頼など、取り扱った送信は三百五十件を数えた。

無線機はもちろんのこと、時には車両さえ提供するボランティアグループ。無線奉仕団。隠岐災害、58豪雨でもマイクを手にする彼らの姿があった！

アマチュア無線局の非常通信と訓練

- **非常通信**（ひじょうつうしん）とは地震、津波、火災、洪水、暴動など非常事態が発生、または発生するおそれがある場合、有線通信を利用することが極めて困難な場合において、人命の救助、災害の救援、交通通信の確保、秩序の維持のために行う。

アマチュア無線における非常通信は、遭難通信、緊急通信、安全通信などと同様に、免許状に記載された目的又は通信の相手方、若しくは**通信事項の範囲を超えて運用することが可能である**。

- アマチュア無線の非常通信は、**すべてに自己責任**で行います。
- 日常的なアマチュア無線業務とは全く異なるので、マニュアルに基づく方法で通信する必要があるので「**非常通信訓練**」を行う。



～昭和39年、加茂町水害～

山陰・北陸豪雨

非常通信に出動

- 中国地区もたびたび災害に襲われ、その都度ハムが活躍した。その活躍振りは時には寝食を忘れ、また、ある時は自宅が被害にあっているのも省みないほどであった。「本日モ晴天ナリ」には、島根県で発生した水害の内、**4回のハムの活躍**振りが紹介されている。最初の記録は、**昭和39年(1964年)の夏の水害**である。この時、7月16日からの集中豪雨で活躍したのは出雲市の多々納勇(JA4KS)さん、直良潔(JA4LP)さん、山根榮吉(JA4AQI)さん、新宮弘吉(JA4CFB)さん、松江市の長岡茂夫(JA4FC)さん、岡本俊夫(JA4FN)さんらであった。

アマチュア無線に対する認識のなかった出雲市は、多々納、長良さんらの非常通信発動の申し入れを断る。二人は山根さんに基地局を依頼し、孤立している加茂町に向かうが、道路が寸断されていたため、一度松江市まで引き返す。長岡、岡本さんと相談した結果、徒歩を覚悟で再度出発し、午前3時過ぎに現地に到着。加茂小学校に無線局を開設し、3.5MHzでコールしたところ新宮さんが受信し、公衆電話を使用して山根さんに知らせる。その後、2日間にわたり被災地の状況を県に知らせ続けた。



島根県の「39.7 豪雨災害」でハムは大活躍をした。

～昭和47年、桜江町水害～ 非常通信に出動

- 昭和47年(1972年)7月11日、島根県各地は梅雨前線による豪雨に見舞われていた。アマチュア無線赤十字奉仕団事務局長を務めていた矢野強(JA4KUH)さんが、県知事から孤立した桜江町への出動要請を受けたのは18日。直良潔(JA4LP)さん宅に基地局を設け、翌14日午前中に3人で3.5MHz無線機を携えて日赤教護班とともに出発。途中の道路は寸断されており、佐々木正道(JA4KBY)さんなどの道路情報を参考にしながら、夕方現地に到着。行政無線の整備が立ち遅れていた当時、頼りになるのは警察無線のみであり、他に情報伝達の方法がなく、矢野さんらが依頼を受けた通信量は膨大であった。それだけに、アマチュア無線の存在は被災地の住民達に安心感を与えたという。

現地からの交信は東京・日赤本社でも傍受しており、現地の状況を常に掌握していたため、救援物資・医薬品などを県支部が要請する頃には発送準備ができていたという。翌15日には、藤江貞生(JA4SHX)さんも加わり、川戸、川越地区でも住民の情報網となった。この他、この水害では江津市の佐々木正道、俊行(JA4NFM)さん親子、国澤忠治郎(JA4AA)さん、船原隆士(JA4DQJ)さん、平田市の河原喜久夫(JA4RQJ)さん、邑智町の落合政輝(JA4IFU)さん達が活躍した。

昭47災害 桜江町 JA4YUL開局

日赤支部・県庁との非常通信 (救援物資・安否等の通信)



「昭47災害」で活躍する無線赤十字奉仕団員
左から黒田一雄・直良潔・矢野強
(桜江町川戸小学校にて)

会員は出雲市を中心に平田市・簸川郡のアマチュア無線関係者で、委員長に日野実(平田市)、副委員長に直良潔(出雲市)が選ばれた。この年七月、奇しくもいわゆる「昭四七災害」が発生し、現地桜江町に於て無線交信による災害援助に身を挺した。

～昭和58年、三隅町水害～

非常通信に出動



昭和58年の「58.7豪雨災害」では、死者・行方不明者112名を出した。

昭和58年(1983年)7月12日、13日に島根県西部を襲った「58年7月豪雨」では112名の死者・行方不明者がでた。日赤は益田赤十字病院に向けて**食料品の海上輸送**を決め、日赤職員の**三島一徳(JH4EDI)**さんと**藤江貞生**さんが**境港の海上保安部の巡視船**に乗り込み、大浜漁港経由で被災地への輸送を支援。その後は**アマチュア無線奉仕団**が**車5台**で**国道54号**を南下し、中国縦断道を通り六日市から益田へ迂回した。

三隅町では**山が崩れ、道路が寸断**、有線回線も途絶した中で多数の死者がでた。大森義明(JA4CJ)さんは三隅アマチュア無線クラブ(JH4YRG)とともに死亡者搬出、孤立者救出、救援物資の輸送などを支援。自家用のディーゼル発電機は10日間回し続けられた。

～昭和63年、浜田市豪雨災害～ 非常通信に出動

- 63年(1988年)7月には浜田市が豪雨災害に見舞われる。浜田ラジオクラブ(JA4YOJ)に対し、市の対策本部より非常無線通信運用の依頼があったのは、7月15日午前8時半。大久保敦司(JA4BRG)さん、藤田正児(JR4WRD)さんが対策本部に移動。浜崎健一(JH4JOR)さんは自宅で中継役となり、大畑増雄(JE4ISH)さんはバイクに乗って情報収集。武田俊夫(JA4UDR)さんは救援物資を積んだヘリコプターを追いかけて、物資輸送の支援を行なった。東(JE4BFN)さんはヘリコプターのパイロットとの連絡を担当した。また、三隅町では神田博道(JF4JFB)さん、金岡(JG4ISN)さん、峠山(JG41SU)さんらが活躍。一方、栗原(JF4TYU)さんは長見地区で負傷者搬出を支援した。



1995・平成7年1月～阪神・淡路大震災～

災害出動

- **1995年(平成7年)1月17日5時46分52秒**、**兵庫県**の**淡路島**北部沖の**明石海峡**(深さ16km)を**震源**として、**マグニチュード7.3**の兵庫県南部地震が発生した。
- **近畿**圏の広域が大きな被害を受けた。特に**震源**に近い神戸市の市街地の被害は甚大で、近代都市での災害として日本国内のみならず、世界中に衝撃を与えた。犠牲者は6,434人にも達し、戦後に発生した自然災害全体でも、最悪のものであった。
- 大田市でグラ～々っと目を覚ました(神戸からの地震が震度3で驚き!)。朝のうちは京都方面が震源地と報道。**日赤県支部からの出動要請により**三刀屋の佐々木団員がアルヒバン大型トラックを提供して救護物資と団員3名が当日には出動した。その後は、団員3名が日赤支部・病院・血液センターの主事とで班を組み 三日毎に交代出動した。新神戸トンネル8kmの真ん中で大きな亀裂破壊が見え、料金ゲートで“責任持たない～”と言われたのを思い出してゾ～ッ。兵庫県支部の現地本部の指令で、救護所・避難所・集積所に連日救護品の配達・運搬に従事した。全国の日赤支部出動者は、宿泊施設を救護班優先で誰もで車中泊で過ごした。無線通信は、出動車～現地本部との連絡のみであった。この震災で犠牲になられた方々のご冥福を祈り、現地の皆様にお見舞い申し上げます。災害出動した日赤島根県支部・島根県無線赤十字奉仕団の皆様、全員無事な任務達成を感謝致します。



2011・平成23年3月 ～東日本大震災～

災害出動

マグニチュード 9.0 震度 7 3月11日 午後2時46分頃

- 東日本大震災は、東北地方太平洋沖地震（加えて長野県北部地震による災害を含む場合もある）およびこれに伴う福島第一原子力発電所事故による災害である。大規模な地震災害であることから大震災と呼称される。
- 東北地方を中心に12都道府県**で2万2,318名の死者・行方不明者が発生した（震災関連死を含む）。これは明治以降の日本の地震被害としては関東大震災、明治三陸地震に次ぐ**3番目**の規模の被害となった。カメラ付き携帯電話・スマートフォンなどの普及で数々の映像や写真が克明に記録され、沿岸部の街を津波が襲来し破壊し尽くす様子や、福島第一原子力発電所におけるメルトダウン発生は、全世界に大きな衝撃を与えた。



←帰還復命 ↑報告会

非常通信・野営訓練 と 全国の日赤・無線奉仕団との通信訓練

島根県無線赤十字奉仕団 (JA4YUL) 宍道森林公園



～通信訓練～



訓練後の
お楽しみ



朝、撤収



島根県総合防災訓練 隠岐の島・旧空港

JA4YUL 通信訓練の実施

通信後全国の奉仕団に送ったQSL(交信証)カードです↓

